

事業所名 グループホーム こうほく

日付 平成 21 年 5 月 28 日

評価機関名 有限会社 アウルメディカルサービス

評価調査員: 健康運動指導士
実務経験10年以上

ホームヘルパー2級
実務経験3年以上

自主評価結果を見る (評価内容と一緒に添付しています。)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)
(記述式)

グループホームこうほくは、静かな住宅街の中にあるが、そこがグループホームであることに気づかないくらい周囲の風景に馴染んだ佇まいである。近くには、植物園があり、入居者は四季の花木を鑑賞し自然に親しむことができる。また、寺院や自衛隊駐屯地という社会資源があり、入居者は、寺院の縁日には参道に並ぶ露店や集う参詣の人々のその殷賑を見物したり、自衛隊駐屯地では毎年開催される夏祭りに参加したり、地域の人々と交流できる環境と機会に恵まれている。

施設は民家を改修して利用しているが、内部は狭い空間をうまく利用していて、不便さを感じさせない。職員は、朝昼晩、入居者の移動時に合わせて、各部屋の換気をするなど衛生面にもきめ細かい配慮をしている。日常生活のスケジュールを決めないことで、無理のない、個人の尊厳を大切にした支援をしている。入居者は家庭的な雰囲気の中、信頼できる職員に囲まれて、安心して笑顔が絶えない毎日を送っているようである。気配りによって落ち着いた環境を形成していて、誰もが入居したくなる、そんなグループホームである。

特に改善の余地があると思われる点(記述式)

とても良い雰囲気の中、職員と入居者が助け合って生活しているが、地域の人々にグループホームの理念をもっと理解してもらえるように、たとえば運営推進会議に地域の学校関係者など、幅広い分野の人にも参加を呼びかけてみるといった活動が期待される。

2. 評価結果(詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	地域に奉仕、貢献することを標榜し、地域の人に愛され、信頼される医療福祉の実現に取り組んでいる。入居者と職員が、喜びも、悲しみも共有しながら、ごく普通の家庭で家族のような気持ちで生活できるグループホームをめざしている。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	入居者との会話を大切にしており、職員同士がよく連携して、全ての入居者を見守りながら、会話が絶えることのないように注意している。浮腫のある入居者には、職員が足のマッサージをするなど、入居者との一対一の触れ合いを大切にしている。また、入居者に快適に過ごしてもらうため、朝昼晩、入居者の移動時に、各部屋の換気をしている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	職員は、家族との会話の中から入居者の今までの家庭環境や生活習慣をしっかりと把握し、入居者に対して否定的な言葉を使うことなく、本人の気持ちを思いやり、受け入れる態度を持つように努めている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	系列事業のデイサービスと合同の勉強会や自治体主催の研修会に職員が参加し、ケアサービスの質の向上を図っている。 挨拶はコミュニケーションの基本ということで、接遇マナーの研修をグループホーム単独で行っている。また、報告、連絡、相談を大切に、問題が発生したときはその都度職員同士で話し合い解決を図っている。		